●八王子市役所職員の能力開発

自	主	研	究
グ	ル	ー	プ
活	動	紹	介

本市では、職員の自己啓発支援の一環として、市政を取り巻く課題などについて調査研究するグループ活動を支援しています。

八王子市総務部職員課人材育成担当

地方分権が進展する中、自治体自らが政策責任の主体となって、多様化する住民ニーズに応えていくことが求められています。このため、自治体職員に求められる能力・役割は変化しており、従来の公務員の枠にとらわれない柔軟な思考で、自ら課題を認識し、解決できる自立型の職員を育成していくことが自治体における重要な課題となっています。本市では、平成 13 年に『人材育成基本方針』を定め、「人事制度」、「職場づくり」、「研修制度」を一体として、職員の育成に取り組んでいます。

ここで紹介する自主研究グループ活動への助成制度(※)は、研修制度の要の一つである自己啓発への支援です。この制度には、制度を設けて以来延べ 60 グループ 524 名の職員が参加してきました。ここ数年は、市の現状や課題を幅広く学ぼうという勉強会や、自らの業務を深く調査研究することで、業務への精通やスキルアップを図ろうとする活動も行われています。

平成 23 年度は、これから紹介する３つのグループが活動を行いました。

グループ名	テーマ
基礎職務能力の向上を目指す会	自治体職員に求められる基礎職務能力の向上を図る
八王子の文化探検隊	東日本大震災をうけて、災害と八王子の歴史について考える
学校給食調理員部会	郷土料理献立・お祝い献立の検討

(※) 自主研究グループ活動助成制度とは

市政の様々な課題について自主的に調査研究を行う３名以上の職員のグループ活動を支援し、自己啓発意欲の高揚や政策形成能力の向上を図ることなどを目的としています。助成の対象は、図書などの購入費や指導・助言者に対する謝礼などです。また、八王子市都市政策研究所の都市政策アドバイザーから活動内容に対する助言を受けられるようになっています。

／／／ 人材育成担当から ／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

日々の業務の中で、疑問に感じたり、もっと深く学んでみたいと思ったりすることは誰にでもあるでしょう。こうしたことを疑問や興味に終わらせず、一歩踏み出して自ら学び、行動し、業務改善につなげること、また、そうした主体性をもった職員に育つことを、人材育成担当は応援しています。

注）各グループの「メンバー紹介」に記載されている所属及び名前は、平成 24 年３月末時点のものです

基礎職務能力の向上を目指す会

代表：八王子市こども家庭部子育て支援課　　　髙野　芳崇

●研究目的

私たちのグループは、地方自治の諸分野に関する知識を深めること、及び政策形成や事務改善を行ううえで不可欠な基礎職務能力（①文献・資料を的確に要約する能力、②所定の条件で分かりやすくプレゼンテーションする能力、③文献・資料および他者の意見に対して的確にコメントする能力）の向上を目的としています。

●研究内容

勉強会は原則月１回の開催で、主に地方自治に関連した課題図書を事前に精読し、レジュメを作成したうえでの参加となり、発表・フリーディスカッションを行っています。勉強会当日は、会の座長として財団法人日本都市センターの中西規之主任研究員、及びアドバイザーとして市史編さん室の木内室長に出席していただき、緊張感あるなか参加者の発言に対する説明やコメントを交えながらの議論を展開することで、理解をより深めていきます。

開催日	課題図書
平成 23 年 10 月 14 日	『財政危機と社会保障』　鈴木亘著　講談社現代新書
平成 23 年 11 月　4 日	『被災地の本当の話をしよう～陸前高田市長が綴るあの日とこれから～』 戸羽太著　ワニブックスＰＬＵＳ新書
平成 23 年 12 月　9 日	『アーカイブズが社会を変える　公文書管理法と情報革命』 松岡資明著　平凡社新書
平成 24 年　1 月 13 日	『まちづくり条例の実態と理論―都市計画法制の補完から自治の手だてへ―』 内海麻利著　第一法規
平成 24 年　3 月　2 日	『官僚制批判の論理と心理－デモクラシーの友と敵』　野口雅弘著　中公新書 ゲスト講師　鈴木潔氏　（財）日本都市センター研究室主任研究員
平成 24 年　3 月　9 日	「人口減少時代の自治体運営」をテーマとするディスカッション ゲスト講師　牧瀬稔氏　（財）地域開発研究所研究部主任研究員

●代表者コメント

私たちの勉強会は本年度で７年目を迎えました。外部の研究員や管理職が参加していることが、勉強会に適度の緊張感を生じさせ、レジュメ作成、発表、フリーディスカッションを開催毎に繰り返すことが、能力向上のトレーニングとなっております。また、さらなる理解のために課題図書に関する法令等の根拠を確認するとともに、地方自治に精通した研究者である鈴木潔氏や牧瀬稔氏をゲストに招いての講義を実施し、より広い知識と職務能力を習得することができたと考えています。最後に、この勉強会を通じてさまざまな世代の職員が交流することで、職場以外の場所で新たな「絆」も醸成できると思います。

●メンバー紹介

所　属	名　前	所　属	名　前
都市政策研究所	元木　博	住民税課	西尾　敦司
広聴広報室	立川　寛之	市民課	辻　誠一郎
法制課	原　清	健康福祉総務課	竹内　均
法制課	金子　正明	障害者福祉課	清水　雅生
法制課	岩田　恵梨	子育て支援課	髙野　芳崇
職員課	杉山　浩一	ごみ減量対策課	小杉　浩文
契約課	米本　光治	都市計画室	橘　桃子
税制課	谷　靖之	教育総務課	最上　和人
税制課	柳沢　盛仁	指導課	久保田　暁

八王子の文化探検隊

代表：八王子市総合政策部市史編さん室　　　渡部　恵一

●研究目的

私たちは、八王子の地域と市政に関する知識を深めるため、八王子に残る多様な「文化」を検証しています。そこで、これまでは過去の市民生活を考え、八王子市役所職員として今後活動していくうえで必要な、「歴史に学ぶ」ということを基本としてきました。

しかしながら、平成 23 年 3 月 11 日の大地震によって引き起こされた東日本大震災は、これまで私たちが目を向けてきた、地域の人びとが生活の中で築き上げてきた文化そのものを、消し去ってしまうかのような大災害でした。

そこで平成 23 年度は、将来の八王子市を襲うかもしれない災害への備えを目的として、市職員として東日本大震災という未曽有の災害と向き合ったことに関し、グループメンバーそれぞれの経験を「文化」として記録に残すこととしました。個人の経験としてそれぞれの記憶にしまい込むのではなく、積極的に記録を残していくことによって、情報を共有しようと考えたわけです。また、記録に残された過去の八王子災害についての情報も欠かせないことから、併せて調査と研究を行うことにしました。

●研究内容

はじめに、「それぞれの体験を将来に残す」というテーマのもと、メンバーが経験したことを互いに報告することから活動を開始しました。メンバーは、災害対策の第一線で働く防災課をはじめ、さまざまな職場に所属していますので、大地震発生当日の市民や帰宅困難者の対応、避難所の開設、その後の被災地復興支援派遣経験など、多様かつ貴重な経験内容が報告されました。また珍しい事例としては、震災発生当日、偶然に福島県内で被災し、津波被害を目撃したメンバーの経験も報告されました。

次に『八王子市史』を教科書として、これまで八王子市を襲った火災・地震・水害など、歴史上のさまざまな災害を学びました。特に、大正 12 年に発生した関東大震災と八王子市の社会状況については、今回の災害経験とも照らし合わせながら、『八王子市史』掲載の資料を読解し、震災直後の被害と支援の様子を確認しました。

●代表者コメント

私たちのグループは、グループメンバーの報告と、それに対する質問と議論を重視しており、各年度に設定した一つのテーマを検討するという手法を通じて、本来の業務で活用できる調査・研究・報告といった能力を同時に培うことができるよう活動してきました。今年度は、非常に身近かつ重要なテーマを設定したため、メンバーそれぞれが、八王子市と市職員としてのこれからと自分を考える、貴重な機会になったと考えています。

●メンバー紹介

所　属	名　前	所　属	名　前
市史編さん室	渡部　恵一	防災課	草木　隆宏
協働推進課	山口　洋輔	市民課	荻田　佳苗
資産税課	竹村　陽子	地域医療推進課	仲宗根　貴子
資産税課	川久保　正太	交通政策室	渡辺　隼
納税課	三上　武留	交通事業課	戸田　広樹
暮らしの安全安心課	久江　行貴	川口図書館	伊藤　綾子

学校給食調理員部会研究グループ

代表：八王子市立横川小学校　　石川　純

●研究目的

・食育として昔から伝わる料理やおやつを給食の献立に加えたい。
・卒業の時期にお祝いの意味を込めた料理を考え、給食の献立に加えたい。
・テーマは郷土料理献立、お祝い献立。

●研究内容

開催月	内容
6月	自主研究グループを立ち上げ、市の職員として何をするか？給食調理員として何をするか？次回までに考えてくることになりました。
7月	メンバーからの色々な意見をまとめたところ「祝い事でサプライズ的な、現場の目線から捉えた独自の献立を作ったらどうか」ということになりました。 具体的なアイデアは、八王子オリジナルの献立として、サクラの塩漬けを使った料理、桜おこわ（一緒に蒸すとほんのりピンクになって祝の品になる）、桜のパン、みそまんじゅう、重曹まんじゅう、ドレッシング（今までにない味を研究）等。 また、八王子の郷土料理は何か考えました。地元のお祭りで有名な酒まんじゅうがあるので、酒まんじゅうを作ってみたらどうかとの意見が出ました。おまんじゅうならお祝いにも繋がるので、酒まんじゅうを作ってみることにしました。
8月	和菓子屋さんにおまんじゅう作りを聞きに行きました。酒まんじゅうは麹を仕込むのに時間がかかるため、前日作業ができない給食では難しいので、重曹に似た物でイスパタを使ってみては、との意見が出ました。
9月	元木小学校で酒まんじゅうを作りました。色々考えた結果、麹を使わないでできる酒まんじゅうを作ることにしました。麹の代わりに酒粕を使いました。
11月	今後の活動内容について色々な意見が出ました。「地場産の野菜や米の取材をする」、「学校を取材して特色を聞く」、「災害の時の炊き出し班を作ったらどうか」、「防災マップを作ったらどうか」、「アルファ米で作るメニューを考える」等々。

●代表者コメント

給食自主研究班を立ち上げてから、７回の研究会議を開きました。色々な意見が出て、和菓子屋さんに行って取材をしてきました。今回は、酒まんじゅうに挑戦して、みんなで力を合わせて作ることができ、愛情がたくさん入った酒まんじゅうになったと思います。子どもたちの給食を考えながら楽しみながら活動できたことはよかったです。今後も色々な意見を出し合い、取り組んでいきたいと思います。

●メンバー紹介

所　属	名　前	所　属	名　前
第一小学校	大塚　暁子	松枝小学校	並木　雅宏
船田小学校	牧原　啓子	由井第三小学校	安田　三枝子
館小・中学校	渡辺　博子	片倉台小学校	仲俣　佳子
横川小学校	石川　純	浅川小学校	瀬川　和美
元木小学校	野宮　やよい	別所小学校	佐々木　辰也
楢原小学校	前田　理		

おまんじゅう作りをしています

あんを生地に包んでいます

酒まんじゅう出来上がり